

日本民家園 花便り3月号(1)

～暮らしと植物～



アセビ 馬酔木 佐地家
「馬酔木」読んで字のごとく、有毒成分を含みます。茎や葉は煎じて、家畜の体を洗い「皮膚の寄生虫除け」にしたり、農作物の「殺虫剤」として利用されました。



ヒイラギナンテン 柊南天 道祖神土手
江戸時代前期に渡来。名前の由来は、葉にはヒイラギのような棘があり、果実のつき方がナンテンに似ているから。ヒイラギは「魔除け」、ナンテンは「難転」なので、ヒイラギナンテンは2in1の縁起の良い庭木として鬼門で活躍。



フキノトウ 落の臺 山田家
春の訪れを告げる山菜。日本原産で縄文時代から食された日本最古の野菜の一つです。春野菜には苦味があるものがあり、新陳代謝をあげる効果が期待されます。冬眠明けの熊もまず最初に食べるそうです。



コウシュウウメ 甲州梅 広瀬家
万葉集でも歌われた梅。花を愛でるだけでなく、果実は携帯食や携帯薬になるので戦国時代には盛んに植栽されました。今では500以上の品種があるそうです。甲州梅は小粒でカリカリ梅になります。



カワヅザクラ 河津桜
向ヶ丘遊園駅～民家園
1955年に南伊豆の河津川沿いで発見された品種。オオシマザクラとカンヒザクラとの自然交配といわれ、両者の「いいとこ取り」。花は大きく早咲きで色が濃く、開花期が1か月もあります。